第2学年　学級活動（2）実践「上手な歯の磨き方」

1　題材について

本題材である「上手な歯の磨き方」は、食後の歯の磨き方についての自己の課題に気づき、上手に磨くための解決方法を考えて、自分に合った磨き方について意思決定や行動選択をすることをねらいとしている。

児童にとって「歯磨き」の活動は、受動的な活動になっていることが多く、短時間で適当に終わらせていることが多くある。実際、授業前のアンケートでは、50%以上の児童が、歯磨きについて上記のような感想をもっていた。しかし、6～8歳ごろは、乳歯から永久歯への生え替わりの時期であり、この時期に萌出する6歳臼歯は、歯並びの要となる大切な歯となる。2年生に歯磨き指導を行い、子どもたちが歯磨きの大切さを理解できるようにすることは、とても意義があることであると考え、G.T.として学校歯科医を招き、学習を行った。

2　学習の実際

本時では、普段の磨き方を振り返り、歯磨きが上手にできない箇所やその原因について話し合った。次に、歯磨きが十分でないと、どのような影響があるか、歯科衛生士の方から話をしてもらい、むし歯になり、歯並びやかむことに影響が出てくることをおさえた。続いて、歯の大型模型を用いて、ブラッシングの仕方（技術的なポイント）をいくつも学び、「磨き方のコツ」としてまとめた。子どもたちは、「磨き方のコツ」の中から、特に意識して磨きたいことを決め、実際に歯を磨いて実践してみた。

3　児童の様子

歯磨きの実践を終えた後、「どんなところに気を付けて歯を磨いたか」を問うと、「奥歯を磨くために、横から歯ブラシを入れて磨いた」「歯と歯茎の間に気を付けて、1本1本ていねいに磨いた。」「鉛筆の持ち方で、軽く磨いた。」など、それぞれに実践したことを具体的に発表していた。 最後に1週間の歯磨き頑張りカードを配布し、1週間の取り組みを自己評価できるようにした。

4　まとめ

歯の磨き方、うがいの仕方について、専門家から技術的なポイントを指導してもらったことで、児童は「自分もやってみたい」という思いを強くしていたように見えた。さらに、メインの学習活動と、事前事後の活動を組み合わせることで、児童の歯磨きへの関心や理解がより深まり、継続的に実践できることにもつながったように思う。